

「宇宙への旅」

コロナ禍でオリンピック開催の是非で世論は揺れているが、宇宙の話も話題に上がっている。

昨年12月には、はやぶさ2号が小惑星「りゅうぐう」から、6年の歳月を経て惑星の物質のサンプルを持ち帰ったニュースは記憶に新しい。今年の5月には、中国の「祝融号」が火星に着陸、ソ連(現ロシア)、アメリカについで成功であった。そして中国は、今年に入って独自の宇宙ステーション「天和」を地上400キロの軌道上での建設を始めた。

国際宇宙ステーション (ISS) は、アメリカ、ロシア、日本など15か国の共同開発で2011年7月に完成し、6名の宇宙飛行士が滞在、半年ごとに3名が交代している。先日も、日本人飛行士星出さんがISSに到着し、野口飛行士が無事地球に帰還したことが報じられた。

共同開発を嫌う中国には宇宙への戦略がある。宇宙ステーションが攻撃武器を搭載すれば軍事戦略は大きく変わるだろう。戦争形態の変遷は歴史的に武器に規定されてきたからだ。

そんな国際宇宙ステーションに、実業家前澤友作さんが50億円の旅費を払って、12日間の滞在宇宙旅行に出かけるらしい。ついに民間人の宇宙旅行が実現するのかと時代の変貌に驚きは隠せない。1961年人類初の有人宇宙旅行でボストーク1号に搭乗したガガーリンは、「地球は青かった！」と言ったのは有名だ。前澤さんもその感慨深さを味わうのだろう。50億円は高いのか、安いのか(笑)？

私もどうしても行きたいところがある。ひとつは先日松山選手が優勝したマスターズトーナメントが開催されたオーガスタナショナルゴルフコースだ。もしそこで念願のプレイができればゴルフは封印してもよい。

そして、もうひとつはもちろん宇宙である。

地球を5周し宇宙から青い地球を鑑賞する。無重力状態を思う存分体験した後、月への周回コースに向かい月を3周し、ウサギの餅つきを確認する(笑)。費用は300万円ぐらいで宇宙旅行としては格安だ。ただし、このツアーは地球への帰還の保障が全くない。月を周回した後は無限の宇宙空間へ旅立つ。それでも「行きたい！！」と愚娘に話したら、「行ったほうがいいよ！」という返事だった。妻にも話したが、「それは貴男が決めれば！いい思い出になるかも？」だった。二人とも引き留めてはくれなかった。

(丹羽 豊)